

◆巻頭言

[今こそ一緒に学術活動を](#)・・・・・・・・・・・・・・・・・・花岡 秀明 551

◆原著論文

[筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群当事者による作業の選択・継続に影響を与える要因](#)

—複線径路・等至性モデリング (TEM) を用いた質的記述的研究—・・・田島 明子・他 553

[脳卒中者の作業遂行の質](#)

— 1 年間の追跡調査—・・・・・・・・・・・・・・・・・・衣笠 真理恵・他 564

[脳卒中後の上肢機能評価における臨床的に意義のある最小変化量と最小可検変化量の検証](#)

—システムティックレビュー—・・・・・・・・・・・・・・・・・・唯根 弘・他 572

[整形外科疾患のリハビリテーションにおける共有意思決定モデルに基づいた](#)

[目標設定に関するスコーピングレビュー](#)・・・・・・・・・・・・・・・・・・大野 勘太・他 581

[訪問リハビリテーション利用家族の介護負担感に関連する要因](#)

—被介護者の抑うつ状態に着目して—・・・・・・・・・・齋藤 弘匡・他 595

[作業療法で用いられる理論や実践手法に関する教育とそれらの実践経験が卒後の職業的](#)

[アイデンティティに及ぼす影響](#)・・・・・・・・・・・・・・・・・・鈴木 渉・他 604

[看護職・リハビリテーション職の多職種連携態度に影響を及ぼす対人葛藤解決方略の検討](#)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・深澤 彩・他 614

◆実践報告

[観念運動失行症例の箸操作に着目した一例](#)

—箸の把握形態の学習により疲労が軽減した介入報告—・・・・・・・・・・豊田 拓磨・他 622

[学校作業療法を円滑に実践できるようになるまでのプロセス](#)

—障壁やその対処方法に関する質的研究—・・・・・・・・・・山口 桜子・他 630

[医療観察法の対象者に対する家事および調理技能の獲得に向けた作業療法介入](#)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・山元 直道・他 638

[回復期リハビリテーション病棟での模擬的就労訓練と定着支援を経て復職を達成した](#)

[脳卒中後高次脳機能障害者の事例](#)・・・・・・・・・・・・・・・・・・木田 聖吾・他 647

[運転診断機能を有するドライブレコーダーを用いて安全な運転再開を支援した一例](#)

—脳損傷者を対象とした事例報告—・・・・・・・・・・田中 創・他 655

[視空間認知障害を合併した脳卒中片麻痺患者に対する応用行動分析学に基づいた](#)

[上衣着衣練習の効果](#)

—単一事例研究—・・・・・・・・・・・・・・・・・・小澤 弘幸・他 663

[超高齢者の作業機能障害の改善を目指した作業に根ざした実践の有用性](#)

—認知機能に相違がある2 例へCAOD を用いて—・・・・・・・・・・酒井 四季子・他 670

[関与度推定システムを活用したポジティブ作業に根ざした実践の臨床有用性](#)

—事例報告—・・・・・・・・・・・・・・・・・・後藤 一樹・他 678

[外傷性頸部症候群による慢性疼痛患者に対する目標に基づいた作業療法の有効性](#)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・長倉 侑祐・他 687

編集後記

▶最近はコロナ関連の報道も落ち着き、各地で夏祭りや旅行など活気のある報道が増えている。先日、県学会が催されたが、ハイフレックス形式での開催であったのにもかかわらず、対面参加者が圧倒的に多かった。やはり、対面での学会参加はその場でしかできないディスカッションがあり、実りが多い。研究内容はこうやって研ぎ澄まされていくものだと感じた。本号も原著論文 7 編、実践報告 9 編とユニークな研究課題が並ぶ。それぞれがコロナ禍でディスカッションもしにくい環境の中、地道に達成した成果だと思うと、尊敬の念に堪えない。今後も益々研究を発展させ、学術誌『作業療法』に多くの貴重な報告が並ぶことを期待する。 (S・K)

▶最近、『わかりやすい省察的实践—実践・学び・研究をつなぐために—』（三輪建二，医学書院，2023）という書籍を読みました。この本では作業療法士のように人と関わることを専門とする職業を「対人関係専門職」として、臨床での実践を省察し学び続けていくことの重要性を説いています。また、臨床での問題解決に対し、知識や技術のハウツー的な「適用」ではなく、実践を踏まえた職業観の「根底」にあるものの「振り返り」（省察）が専門性を高めると述べています。日頃の自分の臨床における実践を「作業療法観」まで落とし込んで十分に省察できていたかどうか考えさせられました。省察的な論文のまとめ方も解説されていますので、ぜひご一読ください。 (H・M)